

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.14

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Jaco Pastorius 【ジャコ・パストリアス】



Photo by Don Hounstein/Roz Levin

Profile

1951年12月1日、米国ペンシルバニア州フィラデルフィア郊外のノリスタウンで生まれる。本名はジョン・フランシス・パストリアス三世。父親はジャズ・シンガー兼ドラマー、祖父もドラマーという音楽一家に生まれた。8歳の時にマイアミ州フォート・ローダデルに引っ越し、12歳でドラマーとして音楽家人生の第一歩を踏み出すが、翌年手首骨折の後遺症からドラムを断念しベーシストに転向。フロリダで幾つかのバンドを渡り歩いた後、74年にR&Bのリトル・ビーバーのアルバム『PARTY DOWN』で初録音。75年に録音した1stアルバム『JACO PASTORIUS』で一気にスターダムにのし上がり、同年ウェザー・リポートのアルバム『BLACK MARKET』に参加し、正式なメンバーとなった。同バンドでは6枚の作品に参加し、数々の伝説的なツアーを行った。81年に同バンドから脱退後は、自身のワード・オブ・マウス・バンドを引き連れツアーを敢行し、82年には来日も果たす。その後もレコーディングやツアーに出るなど精力的に活動を続けるも、徐々に奇行が目立ち始め、精神科病棟に入院するなど生活は荒れて行った。そして、1987年…ふらっと立ち寄った地元フォート・ローダデルのナイト・クラブの用心棒との乱闘がきっかけで昏睡状態が続いた後、9月21日に35歳の生涯を閉じた。

演奏だけでなくその存在も伝説となった永遠の天才ベーシスト！

《ウッドベースを弾くジャコ》

12歳でドラマーとして音楽家人生の第一歩を踏み出したジャコだが、翌年13歳の時にアメリカン・フットボールの試合中に右手首を骨折し、その後遺症からドラムを続けることが困難となった。もしもその怪我が無ければ、名ドラマーとしての道を歩んでいたかもしれない…。そんなジャコの使用ベースは、質屋で90ドルで手に入れたと語られるトレードマークともいえるフレットレスに改造した62年製のフェンダー・ジャズ・ベースだが、ジャコはウッドベースも弾いていた。

本誌『Vol.5』でインタビューが実現したジャコと公私に渡って仲が良かったギタリストのHaru(高内春彦)さんが記事の中で「55BARで河原秀夫くん(w-b)と一緒にやっていた時、ジャコがたまたま遊びに来て『お願いだからちょっとそのウッドベースを弾かせてくれ！乱暴なことにはしないから！』って言うんで弾かせてあげたら、メチャクチャ良かった！」と語ってくれている。また、Haruさん(g)、ジャコ(w-b)、ジェフ・アンドリュース(e-b)、カーク・ドリスコール(ds)の4人でスタンダードを演奏した際に一回録音したことがあったそうだが、そのテープは今も紛失したままだそう…。

アルコールを少しでも口にするとうダメで奇行が目立ったというジャコが来日を果たしたのは1982年。その時も常に酔った状態で、広島城のお堀に愛用のベースを投げ捨てたという逸話は有名！今ではそんな逸話も伝説となっている。

INGRID'S JACO CYBERNEST

ジャコの2番目の奥さんイングリッド元夫人が、ジャコの偉大な業績と世界中のジャコのファンに捧げるために作ったホームページがある。それが『INGRID'S JACO CYBERNEST』(<http://www.jacop.net>)というサイトだが、元夫人ならではのジャコへの愛情を感じさせる素晴らしいホームページだ。“Jaco Tribute Website”というタイトルと共に、ドレッドヘアの精悍な顔つきのジャコが迎えてくれ、貴重な写真や記録などファンには堪らない情報が満載！なかなかのイケメンに成長した息子ジュリアスとフェリックスの写真も必見！！

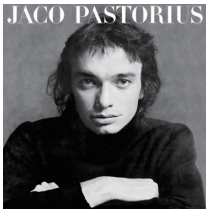
ジャコ Jr. たち

ジャコは2回の結婚で、それぞれ2人ずつ計4人の子供がいた。最初の奥さんトレイシー元夫人との間にジョンとメアリー、2番目のイングリッド元夫人との間にジュリアスとフェリックスという双子の子供を授かった。4人とも何らかの形で音楽に携わっているようだが、ジュリアスとフェリックスはそれぞれベースとドラムを弾き“way of the groove”というバンドで活動中。また、ジャコの甥っ子にあたるデヴィッドもベーシストとして自己のバンド“David Pastorius & Local 518”を率いて活躍中だ。こうしてジャコの魂は現在も受け継がれている。

JP's Great Album

ライブ盤も含め多くの作品を残しているジャコだが、CD 以外にもジャコ唯一の教則ビデオ『モダン・エレクトリック・ベース』や書籍『ジャコ・パストリアスの肖像』等もお薦め！

伝説の名演「ドナ・リー」収録
衝撃のソロ・デビュー・アルバム！



ジャコ・パストリアスの肖像 ジャコ・パストリアス

(ソニーレコード: SICP-1256)

ジャコ・パストリアス (b, horn & string arr)、ランディ・ブレッカー、ロン・トゥーリー (tp)、ドン・アラリアス (congas)、他

1. ドナ・リー
2. カム・オン、カム・オーヴァー
3. コンティニューム
4. クル／スピーク・ライク・ア・チャイルド
5. トレイシーの肖像 (他、全9曲)

「ウェザー・リポート」在席時に録音されたソロ&ジャコの一大傑作



ワード・オブ・マウス ジャコ・パストリアス

(ワーナーミュージックジャパン: WPCR-75378)

ジャコ・パストリアス (b)、ウェイン・ショーター、マイケル・ブレッカー (ts)、ハービー・ハンコック (p)、他

1. クライシス
2. 3 スリー・ヴューズ・オブ・アシークレット
3. リバティ・シティ
4. 半音階的幻想曲
5. ブラックバード (他、全7曲)

「ウェザー・リポート」在席時の 1980 年に録音された自身のバンド「ワード・オブ・マウス」によるソロ・アルバムにして、ジャコの一大傑作と称される作品！最初にジャコがすべてのベース・トラックを録り、他のメンバーがそこに演奏を重ねていくという独特のスタイルで録音されたアルバムで、鬼オジャコの独自の世界に圧倒される。「クライシス」で聴かせる圧巻のベース。12 分にも及ぶ大作「リバティ・シティ」。ビートルズでお馴染みの「ブラックバード」。ジャコの子供も参加した「ジョンとメリー」と名演がズラリ！

1982 年に希望の来日を果たしたジャコのビッグ・バンドでのライブ盤

twins I & II jaco pastorius big band



TWINS I&II ライヴ・イン・ジャパン '82 ジャコ・パストリアス・ビッグ・バンド

(ワーナーミュージックジャパン: WPCR-75379/80)

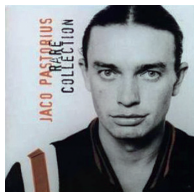
Jaco Pastorius (b), Don Alias (per), Randy Brecker (tp), Peter Erskine (ds), Bobby Mintzer (ts, ss, bc), etc.

- [Disc-1] 1. インヴィテーション 2. ソウル・イントロ〜ザ・チキン 3. コンティニューム 4. リバティ・シティ (他、[Disc-2] の 7 曲含め全 13 曲)

1982 年、スペシャル・ゲストのトゥーツ・シールマンス (harm) を加えた総勢 21 名の豪華ミュージシャン陣を率いて、ジャコが「Aurex Jazz Festival '82」の為に希望の来日を果たした。9 月 1 日の「日本武道館」公演〜9 月 4 日の「大阪フェスティバル・ホール」公演〜9 月 5 日の「横浜スタジアム」公演でのライブを集大成した 2 枚組アルバムがこれだ！スリリングでエナジー全開、グルーヴしまくるジャコのベースに「バックマン・ブルース (ファニー・メイ)」で聴けるジャコのファンキーな歌声も最高の輝きを放つ！

JP's Support Album

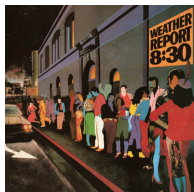
ジャコを知る上で欠かすことのできない「ウェザー・リポート」在席時の作品は勿論、サイドマンとしても抜群の存在感を放っていたそのベース・プレイにも注目して欲しい！



レア・コレクション ジャコ・パストリアス

(ユニバーサル: POCJ-1693)

ジャコの記念すべき初レーディング曲も収録されたジャコのサイドマンとしての記録を 1 枚にまとめた夢のコンピレーション作品。1974〜86 年録音。



8:30 ウェザー・リポート

(ソニーレコード: SICP-1247)

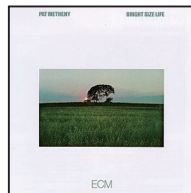
ジャコが在籍したウェザー・リポートの全盛期にリリースされた衝撃の 2 枚組ライブ & スタジオ・アルバム。「バードランド」も収録。1978 年録音。



ミンガス ジョニ・ミッチェル

(ワーナーミュージックジャパン: WPCR-75236)

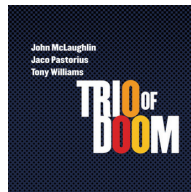
ジョニ・ミッチェルがジャズ史に輝く偉大なベースリスト＝チャールス・ミンガスに捧げた名盤。存在感抜群のジャコのベースにも注目！1979 年録音。



フライト・サイズ・ライヴ バット・メセニー

(ユニバーサル: UCCU-5204)

マイアミ大時代の仲間ジャコとゲイリー・パートン・バンドの同僚ポップ・モーゼスとのトリオによるバット・メセニー (g) のデビュー作。1975 年録音。



トリオ・オブ・ドゥーム トリオ・オブ・ドゥーム

(ソニーレコード: SICP-1513)

1979 年の伝説のイベント「Havana Jam」で一夜限りで結成されたジョン・マクラフリン (g)、トニー・ウィリアムス (ds) とのトリオによる幻のライブ音源。



スタンダード・ゾーン フライアン・メルヴィン・トリオ

(Fresh Sound: FSCD-2040)

1986 年ジャコが躁鬱病の治療から退院し、サンフランシスコで録音したフライアン・メルヴィンのピアノ・トリオでのジャコ最後のスタジオ録音作品。